

令和6年度 第1回防府市観光振興推進協議会
議事録等

□開催日時

令和6年10月28日(月) 午後2時から午後3時30分

□場所

防府市役所 1号館3階 南北会議室

□次第

1 開会

2 議事

(1) 令和6年度上半期に実施した事業等について

(2) 今後の取組に向けた意見交換

(3) その他

3 閉会

□配付資料

資料1 令和6年度上半期の取組について

資料2 今後の主な取組について

資料3 観光振興基本計画について

□報道

なし

□傍聴人

なし

出席者名簿

敬称略・順不同

	区 分	委 員 名	所 属	出 欠
1	学識経験	会長 加藤 真也	山口大学経済学部 准教授	出席
2	観光関係団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出席
3	観光関係団体	中司 達美	(一社)防府観光コンベンション協会 副会長	出席
4	観光関係団体	宇野 好一 (犬塚 要二)	防府観光物産協会 会長 (同事務局長)	代理 出席
5	観光関係団体	種田 正幸	天神町銀座商店街振興組合 理事長	欠席
6	行政関係機関	吉谷 由紀恵	(一社)山口県観光連盟 ゼネラルマネージャー	欠席
7	市民(一般公募)	田中 元昭		欠席
8	市民(一般公募)	西村 和能		出席
9	市民活動団体	京井 和子	特定非営利活動法人 市民活動さぽーとねっと	出席
10	観光関連事業者 (旅行業者)	丹 康二	(株) J T B 山口支店 支店長	出席
11	観光関連事業者 (産業観光関係者)	田中 真二 (小原 文生)	マツダ(株) 防府工場 総務部長 (同総務部アシスタントマネージャー)	代理 出席
	事務局	瀬川 博巳	文化スポーツ観光交流部 部長	
		藤本 奉文	文化スポーツ観光交流部 観光振興課 課長	
		田中 陽一	文化スポーツ観光交流部 観光振興課 課長補佐	
		村田 智生	文化スポーツ観光交流部 観光振興課 観光政策係長	
		平井 耕平	文化スポーツ観光交流部 観光振興課 誘客推進係長	

議事概要	
1 開会 (会議公開)	事務局より開会の宣言 会議の公開について 意義なし
2 議事 (会長) (事務局) (会長) (A委員) (事務局) (A委員) (事務局)	<p>本日の議案について、事務局から一括して説明後、意見交換を行う。 事務局から説明をお願いします。</p> <p>議題（１）令和６年度上半期に実施した事業等について ・資料１「令和６年度上半期の取組について」により説明 議題（２）今後の取組に向けた意見交換 ・資料２「今後の主な取組について」及び資料３「観光振興基本計画について」により説明</p> <p>上半期はトワイライトエクスプレス瑞風の来訪を契機とした事業を中心に進められた。立ち寄り地の毛利邸では道路の修景整備やWi-Fi整備、防府天満宮や駅周辺でも取組を進められ、瑞風の効果を広く波及させようという狙いが伝わってきた。今後の取組については、令和８年のデスティネーションキャンペーンに向けて様々な分野の体験コンテンツの造成を進めておられる。全国に向けてPRできる機会のため、しっかり準備していただきたい。観光振興基本計画については、いよいよ次期計画の策定を進めていく時期となった。次期防府市総合計画策定の進捗と合わせ、事務局からの情報提供や提案を待ちたい。</p> <p>情報発信について、手法を含めた考えを教えていただきたい。</p> <p>観光情報の発信はコンベンション協会と一体となって実施している。特に、イベントや観光資源に関する情報発信については、昨年８月に着任した地域おこし協力隊隊員がSNSへのショート動画配信を行っている。市内向けには市広報などの紙媒体も活用して発信している。加えて、報道機関を通じた発信に繋がるよう、取組内容に関する資料を積極的に提供している。事業効果を高めるため、しっかり情報発信していきたい。</p> <p>KPIの観光消費額が落ちている。宿泊客が少ないことが大きく影響していると思うが、土産物の充実や滞在時間の延長など、今後単価を上げていくための取組について何か考えがあるか。</p> <p>観光消費額は重要な指標と考えている。現在進めている体験コンテンツの造成</p>

	<p>は、新たな消費に繋がるものと考えている。加えて、土産物の充実や周遊促進による滞在時間の延長など、多角的な取組を進めて観光消費額を押し上げていきたい。</p>
(B委員)	<p>周南市はLINEを通じて多くの情報を発信しておられ、大変良い取組と思っている。しっかりと活用するには経費がかかると思うが、検討されてみてはいかがか。</p>
(事務局)	<p>防府観光コンベンション協会でもLINEでの発信をしておられるが、無料の範囲で運用されており、発信数に限界がある。経費をかけてLINEを強化していくのか、或いは新しいツールを取り入れていくのか、より効果的な発信手法を検討していきたい。</p>
(C委員)	<p>大阪関西万博に向けてどういった取組をされるか。</p>
(事務局)	<p>万博会場でのPRとして、山口県や県央連携都市圏域と連携したブース出展を検討している。また、万博を契機としたインバウンド誘客の取組として、観光庁の補助事業やDCに向けた取組で造成した体験コンテンツを商談会などの機会を捉えてPRしていく。</p>
(C委員)	<p>万博が開催されると、全世界の方が公式サイトを閲覧する。その公式サイトの中に、無料で商品コンテンツを掲載できるページがある。全世界に向けて費用をかけずにPRできる絶好の機会を逃さず、誘客に向けて頑張っていただきたい。</p>
(D委員)	<p>市外からの観光客をターゲットにして様々な体験コンテンツの造成を進めておられると思うが、これを市民の方に知っていただけて口コミで発信していただくような方法はお考えか。また、航空自衛隊の基地が立地しているので、飛行機の写真撮影や基地の見学などを体験コンテンツに加えられないか。最後に、基本計画にも「食」が掲げられているが、市外から来られる方に市内飲食店をご紹介するような一覧などは用意されているか。</p>
(事務局)	<p>まず、体験コンテンツについて、最終的には市外・県外の方に体験していただきたいが、市内向けの情報発信もしっかりと行い、市民の方にも楽しんでいただき、発信していただけるような取組も考えていきたい。自衛隊を活かした取組についてはハードルが高いと感じているが、今後の検討課題とさせていただきたい。飲食店の紹介については、店舗の入れ替わりもあることから紙媒体よりデジタル媒体が良いと考えている。地域おこし協力隊が立ち上げた地域情報サイト「ほうふもうら」で様々な地域資源を紹介しており、飲食店の情報も充実しているので連携していきたい。また、観光コンベンション協会では夕食会場と二次会会場をセットにして防府の夜を安心して楽しんでいただくナイト</p>

	ツアーを発売しておられる。
(E委員)	クルーズ船が来年3隻寄港するとのことだが、今後も同程度または増加していく見込みか。
(事務局)	予てから官民で連携してクルーズ船誘致に取り組んできたことから、継続して寄港していただきたいと考えている。そのためにも寄港に向けてしっかり準備を進めていきたい。
(E委員)	寄港の際の滞在時間はどの程度か。
(事務局)	来年寄港する3隻はいずれも朝早く入港して、その日の夕方出港していく予定となっている。その間に乗客の一部が周遊観光に出られるため、防府の観光地を観ていただけるよう、誘客を図っていきたい。
(E委員)	8月に帆船日本丸が寄港した際は数日停泊され、大型の輸送船が接岸できなかったため、内航船で広島まで運搬してから海外へ出荷するような調整を行った。数字上は防府市からの海外向け出荷量が減少したことになる。観光振興も重要と考えており、物流担当者とクルーズ船の寄港について共有し、盛り上げていきたい。もう一点、現在毎日のように工場見学を受け入れている。小学生の社会見学が中心だが、一般見学も受け入れている。一般見学は県内、県外、海外と分けられる。それぞれの特徴として、県内の方は気軽にお越しになる。後の予定が決まっておられない場合は観光パンフレットをお渡しして市内観光を促している。県外の方は市外観光地も含めてしっかり前後の予定を組まれた上でお越しになる。海外の方は、九州や関西などの遠方へ移動する予定を組まれている。滞在時間延長の議論があったが、工場見学での滞在時間は2時間程度なので、今後、数多く造成される予定の体験コンテンツなどと組み合わせることで、防府で有意義な時間を過ごしていただけるのではないかと。ストーリー性のある体験や、防府ならではの体験といった訴求効果の高いものができればいいと思う。最後に、先日フリーマーケットでテレビ生中継をさせていただき、高い広報効果があった。テレビ局の方のお話を伺うと、インターネット動画との競合もあり、新たな事業に取り組んで多角化を進めておられる。お互いに有益な、これまでにない新しい企画ができるのではないかとと思う。
(D委員)	大平山や農業大学校から観る景色、野島や富海など、防府の美しい自然を通じた防府の発信についてどのようにお考えか。
(事務局)	総合計画や観光振興基本計画には、大平山や富海海水浴場、野島などの豊かな自然を観光資源として位置付けている。DCでは右田ヶ岳登山の体験コンテンツ化を検討している。防府の自然の魅力をしっかり発信していきたい。

(A委員)	防府天満宮周辺にタペストリーを設置され、マップも作成されている。このマップに種田山頭火の生家跡から天満宮周辺まで続く「山頭火の小径」を加えれば、散策のきっかけにもなって滞在時間の延長にもつながると思うがいかがか。
(事務局)	「山頭火の小径」は足跡を路面にデザインするなど、まさに散策向け。改定の際に加えたい。
(D委員)	資料にもあったが、松崎小学校が「子ども観光振興課」の取組を行っている。天満宮周辺のマップ作成も行っており、タペストリーマップと連携した取組ができれば面白いと思う。また、紙媒体だけでなく、WEB上で閲覧できるようにするなど、時代にあった展開をしていただきたい。
(F委員)	今年の防府読売マラソン大会で選手へのおもてなしのひとつとして軽食を提供する。久しぶりの取組でもあるので、しっかりPRしていただきたい。
(会長)	クルーズ船寄港がもたらす経済効果の計測に関わっている。クルーズ船の乗客は消費単価が非常に大きく、クルーズ船社に落ちる部分も含めて、平均すると1日当たり7万円程度の消費があるとされている。このことから、クルーズ船の乗客に対するアプローチは非常に大事だと思う。防府市は「歴史のまち」なので、歴史に興味のある方がお越しになって、歴史のスポットを観て消費もされるというのが基本と考えられるが、クルーズ船の乗客はそもそも防府市を目指して来ているわけではないので、アプローチの仕方は通常の観光客と違うべき。「防府市での観光に興味はないが、立ち寄ったのでとりあえず行ってみよう。」という方に歴史をPRしてもなかなか消費には繋がらない可能性が高いので、そういった方々に対して消費を促す取組を改めて考えていかなければならないと感じた。一点、中関港はどの程度の大きさのクルーズ船が入港できるのか。大型のクルーズ船だと水深20メートル程度必要など制約があると聞いている。
(事務局)	クルーズ船の乗客に対してどういったアプローチが良いのか、どういったコンテンツで誘客していくのが良いのか、今後しっかり情報収集していきたい。許容できるクルーズ船の大きさについては停泊する船の長さや船底の深さが影響すると伺っている。
(E委員)	自動車運搬船でいえば、最も大型の船は水深20メートル程度必要のところ、水深12メートルの中関港には一回り小さい運搬船が入港している。
(会長)	下関は大型のクルーズ船が入港できるよう、水深20メートルまで掘り下げた人工島「長州出島」を新たに整備された。それまでは下関港も水深12メー

<p>(事務局)</p>	<p>ルだったと聞いている。今後クルーズ船が多くなるようであれば、港の整備にも繋がるのではないかと思う。</p> <p>クルーズ船の大きさについて補足を申し上げる。中関港は停泊地が2バースあり、来年寄港する3隻のうち、にっぽん丸とミツイオーシャンフジは1バースで足りるが、チャイナマーチャンツアデンは2バース必要。2バース使う場合は寄港にあたって荷役との調整が必要となる。</p>
<p>(C委員)</p>	<p>会長が言われたとおり、クルーズ船のお客様は防府に来るのが目的ではないので、歴史的建造物を目的に降りられる方はいない。こうしたお客様の市内への回遊を促すには、グルメが最も効果的。「食べ歩き」や「テイクアウト」といったキーワードがトレンドとなっているが、皆さん何を見て回遊されるかというと、Googleマップ一択と言っても過言ではない。しかしながら、時間やメニュー、画像の掲載がないなど、情報量がまだまだ足りていない。人気のコンテンツに関する情報をGoogleマップに集約することをアプローチの手法のひとつとして捉え、取組の参考にさせていただきたい。</p>
<p>(G委員)</p>	<p>一市民として、トワイライトエクスプレス瑞風の来訪は大変嬉しい出来事だった。継続して立ち寄っていただけると良いと思う。クルーズ船の寄港予定についても説明があったが、誘致活動を進めていただき増えていけば良いと思う。クルーズ船のお客様をご案内したことがあるが、先ほどお話に出ているようにやはりグルメへの関心が高いと感じた。防府市は子育て支援に力を入れており、育児中の方から「子育てにやさしいまち」という声をよく聞く。防府に転勤で来られた方が子育てのしやすさから定住されて、観光を含めた防府の魅力を自ら発信していただいて、さらにそれがお子さんにも繋がっていけば良いと思う。防府市に住んで随分経つが、まちが明るくきれいになり、温かい雰囲気になってきたと感じている。今後も、観光を含めた防府のまちの発展に貢献していきたい。</p>
<p>(C委員)</p>	<p>観光の最新動向について、国内旅行における上半期の延べ宿泊者数データでご紹介する。まず全国では、コロナ禍前の2019年比106%、前年比107%となっており、国内旅行は順調に拡大している。内訳をみると、日本人は19年比ほぼ100%、前年比97%で、日本人の国内旅行は大きな増減予測のない飽和状態まで戻っている。対してインバウンドは19年比130%、前年比150%超となっており、インバウンドが国内旅行を牽引していることがデータ上明らかとなっている。同じデータを中国5県で見ると、全体では19年比98%、前年比105%で、うち日本人が19年比96%、前年比101%、インバウンドが19年比120%、前年比170%となっており、全体としては若干下回っているものの、傾向は同じとなっている。では、山口県ではどうかというと、全体が19年比88.6%、前年比94.6%で、全国や中国5県に比べると下回っている。うち日本人が19年比88%、前年比93%、イ</p>

ンバウンドが19年比100%、前年比156%で、日本人の旅行は低調だが、インバウンドは約1.5倍になっているため、まだまだ分母が小さいとはいえ、インバウンド誘客に注力していく必要性はあるのではないかと思います。ニューヨーク・タイムズ効果に期待が集まる中、山口県が全国を下回った原因について考えているが、前年比が低調だったのは、前年にG7が開催された際、広島から漏れた宿泊が岩国や周南方面まで広がっており、平年を上回る宿泊があったことが少しだけ影響しているように思う。加えて、意外に人手不足も影響している可能性がある。つまり、人手不足のため宿泊施設が部屋の稼働率を抑えざるを得ず、結果として宿泊者数が落ちているのではないかと考えている。観光振興には情報発信も重要だが、受け入れる側の体制も整えなければ数字がついてこない現実が読み取れると分析している。このことから、情報発信などの外向けの施策と、受入環境整備などの内向けの施策という両輪を回すことで、観光の力を最大限発揮できるということも今後の課題として持つておく必要性があると思っている。今後のインバウンドの動向予測については、上半期のペースが下半期も継続しているため、過去最高だった19年の3,188万人を超える3,500万人の達成が視野に入っている。インバウンドが伸びていると言っても、実際は全体の7割を三大都市圏が占めており、オーバーツーリズムによる弊害という課題が残されているため、地方空港の国際便復活などで地方分散を進めていく必要性を感じている。また、これまでのインバウンドの主流は韓国や台湾、東南アジアだったが、ついに中国が復活してきた。国際線の回復が遅れていたが、7月の訪日数では77万人を超え、国別でトップに振り返り咲いた。国慶節や春節等を踏まえると、さらなる訪日需要の拡大が予測されるため、分母の大きい中国マーケット拡大への対策も準備を進めていく必要があると思う。その上で、中国人観光客のニーズがコロナ禍前と大きく変わってきていることに注意が必要。訪日中国人観光客の7割が20代30代の若い世代となったことで変わってきた。恐らく皆さんがお持ちの、ショッピングばかりしているイメージは過去のもので、今のニーズは日本の最新トレンドやニッチな体験にあり、日本らしい特別感が演出できるコンテンツが求められている。今まさに防府市が進めている体験コンテンツの磨き上げがこうしたニーズに繋がるのではないかと考えている。日本政府が訪日外国人観光客数の目標として掲げている2030年、6,000万人を実現するためには、日本人の宿泊数が変わらないと仮定すると、客室の供給量を2割程度増やす必要があると言われている。人材不足や生産性の向上など、様々な問題や課題を包括的に解決し、増加する訪日外国人観光客に対応していかなければならない。以上のような傾向や課題を参考に、引き続き観光素材や体験コンテンツの磨き上げに取り組んでいただきたい。

(会長)

貴重な情報に感謝する。瑞風の立ち寄りやクルーズ船の寄港などで観光地としての防府に注目が集まり、さらには来年の大阪万博や毛利氏庭園名勝指定30年、再来年のデスティネーションキャンペーンや、防府天満宮式年大祭など多くの機会に恵まれ追い風が吹いているように思う。これまでの成果を活かしな

3 閉会

がら、防府の観光をさらに前に進めていただくような取組に期待する。委員の皆さまからのご意見やご提案は、事務局で持ち帰り関係者で丁寧に議論させていただく。また、本日協議した内容については関係各課でしっかりと情報共有を図り、防府市の観光振興に繋げていただきたい。それでは全ての議事が終了したので令和6年度第1回目の防府市観光振興推進協議会を閉じたい。進行を事務局へお返しする。